

11月も終わり、留学生活も終わりを迎えます。今まで、時間が過ぎるのがあっという間などと言っていましたが、実は気の遠いほど長い時間を感じていることもありました。長いような短いような私の留学ももう終わりです。もう少しで自分の家族や友人に会えるのだという喜びと、留学生活で築いた人間関係にお別れを告げる寂しさが同時に現れて戸惑っている日々です。

最近私は、英語を話すことについて考えることがあります。私は留学するまでは、向こうで生活していれば、英語が話せるようになるかなと漠然な考えを持っていました。しかし、私は今、英語を話すうえで一番重要になっていくのはコミュニケーション能力だと痛感しています。英語の知識なんて後から多少必要になるだけで、基本的な知識さえあれば、とりあえず、コミュニケーション能力さえあれば話すことにおいては苦労しません。私は自分のコミュニケーション能力のなさに改めて気づかされました。もともと新しい人間関係をどんどん作っていくのが得意ではなかったのですが、特に、自分が少数派の中にいる人間であるという環境で、新しく人間関係を作って、ましてやろくに話したこともない言語で話しかけることは自分にとってとってもハードルが高いことでした。私はコミュニケーションを取るとき、自分がどれほど自分に自信があるか、自分を肯定できるかがとても重要になっていくような人間であると気付かされました。自分の話す英語に自信が持てず、話しかけるのをためらったり、会話の中でも思ったことをすぐ言葉にできず歯がゆさを感じたりすることがたくさんありました。私は学校で一人だけの日本人でしたが、唯一の日本人だということをなかなか乗り越えられなかったです。自分より背丈もたかく、今まで対峙したこともない人種の人たちに、ろくに言葉を話せない私はどうやって自信をもって話せるのでしょうか。すごく高い壁でした。そんなことは日本にいたときに考えたこともありませんでした。自分が思っているより、少数側の人間でいるのは居心地が悪いです。人種だけでなく、考え方や、生き方において、マイノリティにいたことは勇気がいることです。しかし、悪いことだけではありませんでした。そうした中だと、自分がどんな人間なのか浮き彫りになってきます。自分自身と向き合うことができました。流されやすい性格の私なら、日本にいただけではわからなかった、自分という人間の新しい一面を知ることができました。また、ろくに話したことの無い英語も、経験を重ねていくうちに以前より自信がついているように感じます。留学してよかったな、と思った瞬間でした。完璧を求めたり、周りの人たちと比べたりすることは自分をより一層孤独にしてしまうように思えます。人生は自分のペースでいいのだと、自分のことを誰も知らない場所で、留学を選択していなければ会うこともなかった人たちと会話を重ねていくことで気づいた気がします。11月いっぱいであたしの留学生活も終わりますが、ここで感じたことや経験したことを人生の大切な一部として忘れずにこれからの自分の人生に活かしていきたいと思います。